

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

大阪大学・消化器外科での研修を終えて

鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科

鶴田 祐介

日本臨床外科学会による若手外科医を対象とした国内外科研修に応募し、大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学にて2022年10月3日から10月21日まで3週間研修させて頂きました。長らく新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に振り回される日々でしたが、ようやくwith コロナが浸透し始め、世間では全国旅行支援が開始されて賑わいを取り戻しはじめた頃でした。私は鹿児島大学病院にて上部消化管外科（主に食道）を中心とした診療を行うようになってから3年目ではありますが、自分の手術手技に関していまひとつ手応えを掴むことができずにおり、今回の研修を絶好の機会と捉えて挑むことにしました。

研修初日は医局全体の臨床カンファレンスと江口教授による教授回診から始まりました。大阪大学消化器外科では毎週多くの手術が行われていましたが、術前、術後のプレゼンが簡潔にテンポよく施行され、必要な場面で濃密な議論がなされていました。教授回診は緊張感もありつつ、患者に対しては丁寧な回診が行われていました。また、週1回の医局全体の研究カンファレンス、臓器別グループでの研究カンファレンスなどでは、常にエビデンスを発信する大阪大学消化器外科の一端を垣間見ることができました。カンファレンスや回診に参加し、大阪大学消化器外科の言葉で表せないような強烈なパワーを肌で感じました。

大阪大学消化器外科食道チームは土岐教授以下4人のスタッフを中心に週2～3件、年間100件以上の手術が行われており、2022年からはロボット2台体制となり、多くの症例でロボット支援食道切除術が実施されていました。手術だけでなく、内視鏡検査や周術期治療など全てをこなしていました。また特徴として、併存症などで状態の悪い症例、周囲臓器への浸潤を伴う高度進行癌、頸部食道癌など治療が難しいとされる症例の割合が多いとのことでした。厳しい症例に立ち向かうために、週2回の上部消化管グループでの病棟カンファレンスが実施されていました。さらに、毎週1回、消化器外科だけでなく消化器内科・放射線科・化学療法専門医による合同での食道疾患カンファレンスが開かれ、ベストな治療が選択できるよう全ての新患や問題症例に関して議論がなされていました。カンファレンスへの参加を通じて、食道疾患に対する治療の様々な考え方に触れることができました。

実際の手術手技に関しては胸腔鏡手術、ロボット支援手術の両方で定型化がなされており、無駄がなく、スピーディーでありました。食道のテーピングは下肺静脈、大動脈弓下縁、右鎖骨下動脈上縁の高さの3点で行われており、終始良好な視野とテンションが終始維持されていました。また、上縦隔の郭清における迷走神経、反回神経に対する適切なテンションのかけ方は非常に参考になりました。局所進行の厳しい症例に対しては、化学療法や放射線治療を行いながら、常に手術のタイミングを逃さないように意識されているようでした。研修中にも大動脈に近接し、肺の一部合併切除も必要であった症例の手術を見学することができましたが、普段から実施されている良好な視野・テンションを求める手術手技があるからこそ、難しい症例に対応できるのだと納得しました。学会や研究会などで他施設の胸部操作の手術ビデオを見ることはできますが、普段あまり見ることのできない頸部操作、再建操作、腸瘻造設など、実際に手洗いをして間近に見ることができたのは良い経験でした。鹿児島に戻って実施したい手技もたくさんありました。術後抜管、ドレーン抜去、食事・飲水のタイミング、栄養管理やリハビリなど、他

施設の周術期管理を学べたことも有意義でした。

そして、今回の研修中に最も感動したことは、土岐教授の手術を見学できたことでした。右鎖骨下動脈起始異常が存在する難しい症例にも関わらず、迷いがなく、流れるような手術に感銘を受けました。また、私や手術室スタッフに対する温かい気遣いもあり、とても良い雰囲気で行われていました。

今回の大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学での国内外科研修は、本当に有意義なものとなりました。研修で学んだことを日々の診療や研究に活かせるように、より一層努力していきたいと思います。このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長、学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、研修を快諾頂き、貴重な経験をさせて頂いた大阪大学消化器外科の土岐祐一郎教授、江口英利教授、研修期間中に温かくご指導を頂いた上部消化管グループの先生方をはじめ、医局の方々に感謝申し上げます。今回、研修応募の機会を与えていただき、推薦してくださいました鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科の大塚隆生教授をはじめ、快く研修に送り出してくださった当教室医局の先生方にもこの場を借りて感謝申し上げます。



土岐祐一郎教授と



上部消化管グループ懇親会